

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年 (百七十三)

第七章 「アラブの春」―はかない夢のひとつ (六)

百七十三 「アラブの春」の訪れ (二―四)



勿論そこには独裁者による巧妙な世論操作もあるが、大統領の多選を禁じた憲法は圧倒的多数で改正され彼は終身大統領となる。こうなれば国家は独裁者の思うままである。彼の権力基盤は盤石となり長期政権が延々と続く。さらに権力の世襲化も起こる。二〇〇〇年に父親のハフィーズから息子のバシヤールに大統領を引き継いだシリアのアサド政権に続き、リビアのカダフィ、そしてエジプトのムバラクも息子に権力を譲ろうと画策した。

しかし権力は必ず腐敗するものである。政治社会組織にはほころびが目立ち始め経済は長期低落の罫に落ち込む。人気取り政策でパンやガソリン代、水道電気代は安く抑え込まれるため庶民の日常生活は一見支障のないように見えるが、街には失業者があふれ、庶民は明日の見えない閉塞感に襲われる。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: Arehakazuyal@gmail.com